

のびゆく吾が郷土 市制十周年を迎えて



都市建設の基礎が確立されたことあります。

夢を抱いては
果して辛抱で
胸中誠に寒々
じたのでござ

るばる参つたが
きるかどうか、
としたものを感じ
ます。

十五日に除幕式

史蹟「勇払会所の跡」に石碑

一昨年三月十日市文化財保護条例により指定文化財第二号はとして永久保存されることに治

「た史跡 勇払会の跡」
、去る二十九年以來勇払自
会から会所の跡を永久に記

顧みますに、當時我が国は敗戦による人心の動揺、経済の混乱から漸く持ち上り、復興に邁進していたさ中に、順調な進展を続け、人口も三万二千六百余人に増加をみた当市は、待望の市制が実現をみました。爾來市民各位の熱誠なご努力と各方面のご指導により、教育、保健、福祉面における向上をはじめ、上下水道、交通、道路等施設の整備も進み、今日著しい発展を遂げることができたのであります。全く様相一変し往日の観なき市の現状をみますとき、感無量であると同時に誠にご同慶に存する次第です。特にこの間において、私共市民の最も歓喜したことは、数十年にわたつて念願し、運動を続けてきた懸案の工業港が、昭和二十六年いよいよ国の直轄事業として着工をみ、これに併し当市の大方針である工業港を中心とした大臨海工業

先輩の苦口
例年に見られぬ今年の暑さに
吉小牧人は、本州なみの正に
夏らしい気分を味わつたので
あります、すでにその半ば
を過ぎ、立秋の風も立ち初め
て豊穣の秋を予想される今日
意義ある市制十周年の式典を
挙行されるに至りましたこと
は衷心から感激するところで
あります。

思いりますに、私が吉小牧に
第一歩を踏み入れたのは今を
去る五十二年前の明治三十九
年で、日露戦争直後であります
した。先ず駿前に降り立つたと
とき、付近は人家が点々とま

市議会議長 渡辺広継

当市の開基は明治五年ころで、爾来、本市は村から二級町村へと飛躍的發展を遂げ、去る昭和二十三年、即ち終戦の余じんいたのでありますから、開拓當時の当时人口三万余りで市制が施行されたのであります。すなまめやらぬ混頓たる中に先輩古老人の苦労は到底筆舌に現わされないものがあつたと推察するのであります。御承知のことより、当市は地味極めて悪く、農家をもつて、大成することは、到底望めないとこらであります。ですが、その反面昔から交通の要衝であり見る通り平坦広大な土地で加えて水利に恵まれ降雪量も少ない等の条件から工業地帯として識者の認めるところとなつて、より三才を経て、四十三年、明治四十年、王子製紙株式会社が起工の運びとなり、それいわゆる東洋一を誇る王子製紙会社が誕生したわけであり

るとも考るものでござります。

爾来、本市は村から二級町村時代、更に一級町村へと飛躍的發展を遂げ、去る昭和二十三年、即ち終戦の余じんいたのでありますから、開拓當時の当时人口三万余りで市制が施行されたのであります。すなまめやらぬ混頓たる中に先輩古老人の苦労は到底筆舌に現わされないものがあつたと推察するのであります。御承知のことより、当市は地味極めて悪く、農家をもつて、大成することは、到底望めないとこらであります。ですが、その反面昔から交通の要衝であり見る通り平坦広大な土地で加えて水利に恵まれ降雪量も少ない等の条件から工業地帯として識者の認めるところとなつて、より三才を経て、四十三年、明治四十年、王子製紙株式会社が起工の運びとなり、それいわゆる東洋一を誇る王子製紙会社が誕生したわけであり

るとも考るものでござります。

過ぐる
制施行以
十周年を
からお祝
まー。

に磐石の態
確信し、新
るにふさわ
共の喜び共
ありません
昭和二十
三年四月市
来ごとに記念すべき
迎え、皆様と共に
おいたしたいと存じ

勢をつくるものと
しいスタートを飾
しい快事として私
れに過ぐるものには

港湾とその背面計画をはじめ幾多の懸案、更に今後の膨張進展に対応すべき諸施策などを重視する問題が山積しており、これ記念すべき市制施行十周年を迎えるに当り所感の一端を申上げ市民皆様の一そなでの協力をお願いする次第です。

A circular portrait of a man with short, dark hair. A blue ink stamp is placed over his right eye, containing the characters '支那' (China). The portrait is set against a light background.

強く第二のスタートを切ります。

、その道は誠に喰しいのであります。
、都市としての本格的充実です。
制施行後十年を経たとはい
ります。

期待される開發會社

海上自衛隊記念事典

過な
△昭和十一年勇払開基三百年
祭に機会に会所跡に会所記念
碑を建立△昭和十九年この記
念碑は腐朽倒壊して終戦を迎
えた△昭和十九年から同二十
九年八月まで会所跡には實際
に見事に建つてゐる。そ

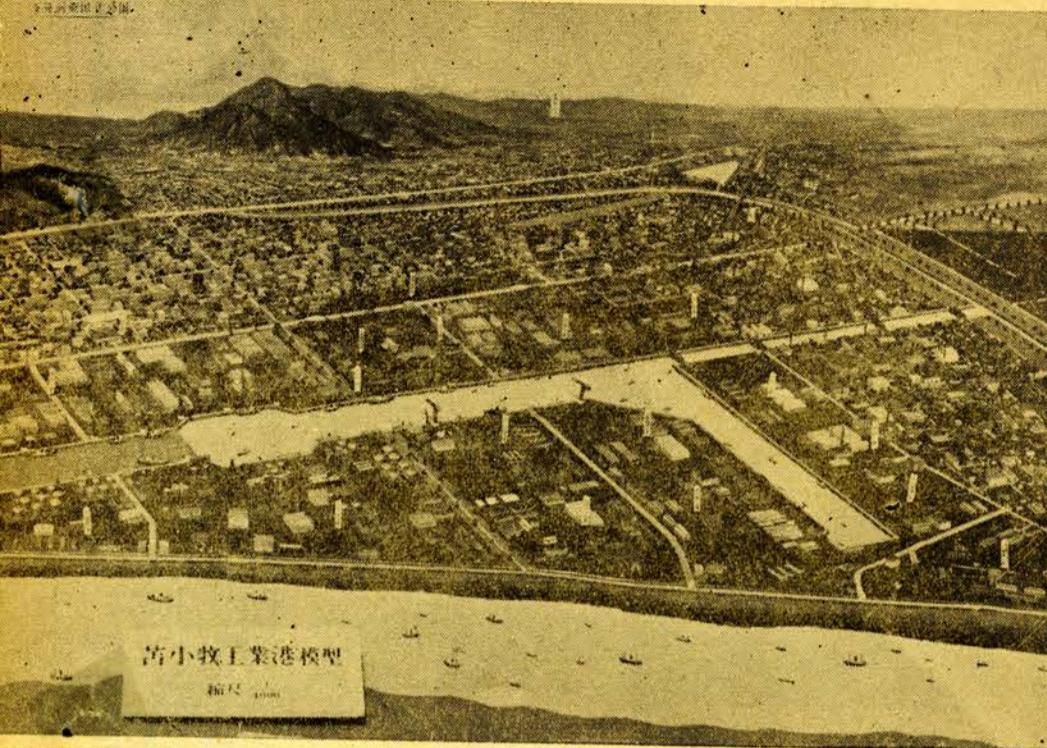
とまこまい今昔

名譽市民 小保方卯市

すべての行政事務の場で、たつただけに繁栄をきた豊漁の時代には、北海における「樽前粕」の産地として内方面に輸送されていたのと記憶しております。明治二十九年苦小牧にたときの主なる産業は

A black and white portrait of a middle-aged man with short hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a dark tie. He is looking slightly to his left. The background is plain and light-colored.

引受
には途を
した王
子牧に
らず実現
しめにして
うぞ市民の
機を逸せず
和協団結、大
目的の達成に
邁進せられ
るよう願つて
やみません



苦小牧工業港模型

結實 年都市

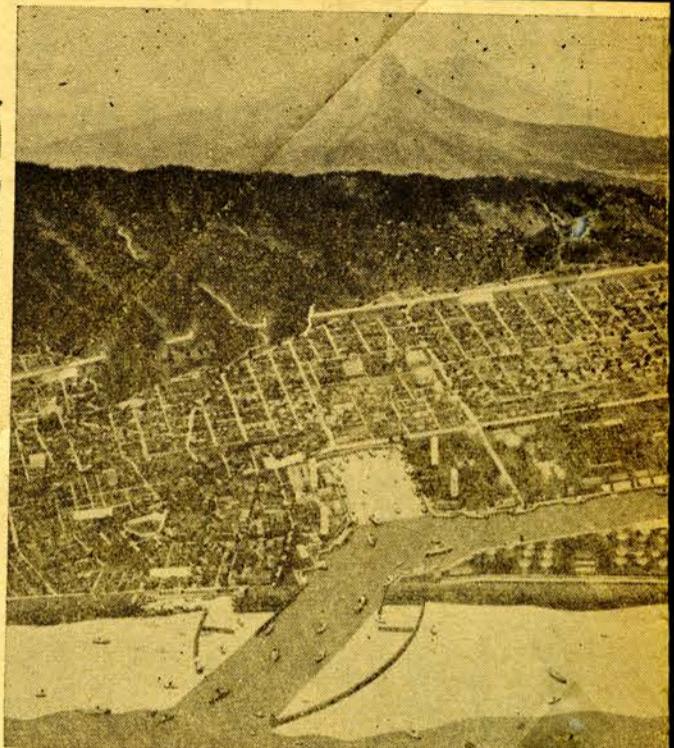
てからじに十年かかる
民福祉の努力を重ね
に臨海工業地帯造
約發展が

この十年間に、苦小牧市は、北海道東北開発公庫の出資を受けて、苦小牧港修築工事が実施され、港の開港が実現されました。その後、港の開港により、多くの企業が進出し、苦小牧市は、工業都市として急速に発展しました。

苦小牧港は、昭和二十六年に開港し、以来、多くの企業が進出し、苦小牧市は、工業都市として急速に発展しました。また、苦小牧港は、北海道東北開発公庫の出資を受けて、港の開港が実現されました。

予算は十倍に 各種施設の整備をはかる

産業別人口は



苦節十年今ぞ 力強い建設譜を奏でる青

敗戦の混乱期を抜け切らない昭和二十三年に市制施行し長い戦争のため地方公共団体もその本来の使命とする住えりみられなかつた状態に置かれこの市も市制施行当時ては見るべきものが全くなかつた。以来都市づくりに懸命年のはじめは漸く今日の苦小牧にこぎつけた。苦小牧工業港も昭和二十六年から国費をもつて着工ここ成の明るく力強い大苦小牧建設への足がかりができ飛躍はじめた。

度年	支出	決算額
昭和23年	7,312,111,500	3,490,549,162
昭和24年	7,385,642,269,070	5,491,622,690,700
昭和25年	1,135,556,428,575	1,135,556,428,575
昭和26年	5,466,668,542	5,466,668,542

人口は二万

市制施行の昭和二十三年に三万三千に過ぎなかつた人口も今では五万七千を数えるに至つた。この人口の増加を自然

(産業、商業、狩猟、漁業、設造、及保育、融通)

総農林漁鉱建製卸金運サ公

市立第五小学校の正式 学校名募集について

十月開校予定の市立第五小学校(仮称「緑町に建築中」)に最もふさわしい正式学校名を一般から募集しておりますから、ハガキに学校名および応募者の住所氏名を書いて二十日までに市教委にお出し下さい。選考委員会で予選を行ない市教委で正式決定して、当選者には記念品を贈りますが但し同一名称の多い場合は抽せんにより三名だけに限ります。

改新築七、七一七坪▽中学校▽市立総合病院建築二、一八四坪(三四二床)▽小学校増設した主な事業

度年昭和23年

度年昭和24年

度年昭和25年

度年昭和26年

度年昭和27年

度年昭和28年

度年昭和29年

度年昭和30年

度年昭和31年

度年昭和32年

度年昭和33年

度年昭和34年

度年昭和35年

度年昭和36年

度年昭和37年

度年昭和38年

度年昭和39年

度年昭和40年

度年昭和41年

度年昭和42年

度年昭和43年

度年昭和44年

度年昭和45年

度年昭和46年

度年昭和47年

度年昭和48年

度年昭和49年

度年昭和50年

度年昭和51年

度年昭和52年

度年昭和53年

度年昭和54年

度年昭和55年

度年昭和56年

度年昭和57年

度年昭和58年

度年昭和59年

度年昭和60年

度年昭和61年

度年昭和62年

度年昭和63年

度年昭和64年

度年昭和65年

度年昭和66年

度年昭和67年

度年昭和68年

度年昭和69年

度年昭和70年

度年昭和71年

度年昭和72年

度年昭和73年

度年昭和74年

度年昭和75年

度年昭和76年

度年昭和77年

度年昭和78年

度年昭和79年

度年昭和80年

度年昭和81年

度年昭和82年

度年昭和83年

度年昭和84年

度年昭和85年

度年昭和86年

度年昭和87年

度年昭和88年

度年昭和89年

度年昭和90年

度年昭和91年

度年昭和92年

度年昭和93年

度年昭和94年

度年昭和95年

度年昭和96年

度年昭和97年

度年昭和98年

度年昭和99年

度年昭和100年

度年昭和101年

度年昭和102年

度年昭和103年

度年昭和104年

度年昭和105年

度年昭和106年

度年昭和107年

度年昭和108年

度年昭和109年

度年昭和110年

度年昭和111年

度年昭和112年

度年昭和113年

度年昭和114年

度年昭和115年

度年昭和116年

度年昭和117年

度年昭和118年

度年昭和119年

度年昭和120年

度年昭和121年

度年昭和122年

度年昭和123年

度年昭和124年

度年昭和125年

度年昭和126年

度年昭和127年

度年昭和128年

度年昭和129年

度年昭和130年

度年昭和131年

度年昭和132年

度年昭和133年

度年昭和134年

度年昭和135年

度年昭和136年

度年昭和137年

度年昭和138年

度年昭和139年

度年昭和140年

度年昭和141年

度年昭和142年

度年昭和143年

度年昭和144年

度年昭和145年

度年昭和146年

度年昭和147年

度年昭和148年

度年昭和149年

度年昭和150年

度年昭和151年

度年昭和152年

度年昭和153年

度年昭和154年

度年昭和155年

度年昭和156年

度年昭和157年

度年昭和158年

度年昭和159年

度年昭和160年

度年昭和161年

度年昭和162年

度年昭和163年

度年昭和164年

度年昭和165年

度年昭和166年

度年昭和167年

度年昭和168年

度年昭和169年

度年昭和170年

度年昭和171年

度年昭和172年

度年昭和173年

度年昭和174年

度年昭和175年

度年昭和176年

度年昭和177年

度年昭和178年

度年昭和179年

度年昭和180年

度年昭和181年

</div

